

## 香川県の具体的移住行政

### 14. 南米香川県人会館の建設

1913年(大正2年)にブラジルへの香川県人移住が始まり、以来、戦前2,300人、戦後600人余りが移住した中で移住社会は発展し、2、3世を含めると県人は約8,000人を数えるようになった。こうした中、ブラジル日本人移住70周年を迎えた1978年(昭和53年)に、ブラジル県人会(故松家英雄会長)では、県人の親睦を深め、相互の発展と母県との交流を図るために香川県人会館の設立を熱望するようになった。サンパウロ



旧香川県人会館

中心部から6・離れた所(サンパウロ市ビラマリアナ区イタイプ街422)に適当な建物が見つかり、これを購入し県人会館とする計画が持ち上がった。

県人会は、前川県知事らに県人会館取得に伴う助成の要望書を提出し、土地925・と建物2棟の取得費のうち、県、市町、県海外移住家族会へ助成を要望した。県や市町では直ちに予算対応を行うとともに、県海外移住家族会と県移住協会が広く募金活動を開始した結果、十分な資金が集まり、これを会館取得費および会館管理基金として県人会へ送った。県人会では同年12月末に会館取得手続を済ませ、翌1979年(昭和54年)に行われるブラジル県人会創立25周年記念式典に併せ、前川知事らが参列するなか、県人会館開所式を開催した。

以来、県人会の総会や記念式典、会合、県人子弟などを対象とした剣道の練習など、さまざまな県人会活動に使われてきたが、元々中古の住宅を購入し県人会館としたため、時代が過ぎるにつれ、老朽化し改築の声も挙がってきた。1988年(昭和63年)の瀬戸大橋開通記念式典に招かれたブラジル県人会役員からも改築の要望が、知事に寄せられたのをはじめ、さまざまな機会をとらえて県に改築の協力要請が行われた。ただ、県人会内部では、新たな会館の建設、活用についてさまざまな構想が持ち上がり、長期間にわたり活発な議論がなされた。

こうした中、県人会館が築後30年を経過し老朽化したため、会館跡地への新県人会館の建設を行うこととし、1992年(平成4年)10月に、建設支援の要望が県に正式にもたらされた。

県では検討の結果、南米5ヶ国にある県人会全体の交流拠点として位置づけ、南米県人会館として改築に協力することとした。1993年度(平成5年度)に、県や市町、県農協中央会、県海外移住家族会などから助成金を送るほか、県出身の神内良一・日本国際協力財団理事長の全面的な協力もあった。

ブラジル県人会では同年12月に旧会館を取り壊し、1994年(平成6年)2月に工事着手した。ところが、現地の猛烈なインフレの影響で建設会社が倒産し、翌年7月に工事が中断し



南米新香川県人会館 た。県では会館完成に向けて1996年度(平成8年度)にさらなる支援をするなどにより、同年7月に新たな建設会社と工事契約を結び、工事を再開させ、翌年4月に竣工式典が平井知事や県人会役員ら約350人の参列のもと、盛大に行われた。

南米県人会館は、鉄筋コンクリート地上6階建て、地下2階、延べ床面積2,300㎡で、宿泊室45室、大ホール、体育館、会議室兼食堂などを備えた南米にある各県の県人会館の中でも最大規模のものとなった。